

平成26年度（2014年度）事業報告

1. 全体評価まとめ

- (1) エコセンター設立10周年を迎え記念講演会を実施するとともに、10年の足跡を振り返り、未来に向けさらなる活動を展開するため、記念誌を作成し関係者へ配布した。
- (2) 「もったいない運動えどがわ」参加登録数が10万人を超え、地域をあげた環境づくりの取り組みが進展している。
- (3) 21世紀子ども放課後環境学習は、すすくすくスクール系の協力を得て、計画をはるかに上回る20校961人の児童が参加した。
- (4) 「みどりのカーテン」は例年人気があり、今年度も予定件数を上回る447件の参加があった。また、環境フェアで新たにミニ講習会を実施した。
- (5) 水辺環境調査は、新中川の調査年で、悪天候による度重なる日程変更もあったが、例年通りの調査を行うことができた。
- (6) 新企画事業として、会員向け講演会及び日帰りバス研修会を実施し、好評を得た。

2. 次年度へ向けた重点課題

- (1) 東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、持続可能な地域社会を目指して「もったいない運動えどがわ」のさらなるPRを行っていく。
- (2) グリーンプラン推進校ではこどもエコクラブ（日本環境協会）と連携した取り組みを進めていく。また、環境学習を中心に、大学生等の若い世代のスタッフが参加できる環境づくりに努めていく。
- (3) 町会・自治会等の組織に「省エネ・節電チャレンジ」「省エネナビ」への参加を積極的に働きかける。合わせて「省エネ出前講座」をすすめる。
- (4) エコカンパニーに参加する事業者を拡大するため、区と連携し、融資制度や講演会等、事業者への支援を充実させる。
- (5) 江戸川総合人生大学事務局との連携を密にし、より多くの学生にスタッフとして参加していただき、卒業後は会員となって活躍する場を提供できるよう努める。
- (6) 水辺環境調査の長年蓄積したデータを活用し、江戸川区の豊かな自然環境を周知するためのパンフレットを制作する。

3. 事業評価

活動項目		H25	H26	比
事業	事業数（件）	214	275	61
	参加者数（人）	15,796	16,387	591
会員等	会員数（個人・団体）	252	239	△13
	もっていない運動登録者数（人）	95,330	102,391	7,061
財務	区補助金実績（千円）	40,118	45,479	5,361
	民間等助成金実績（千円）	2,292	2,536	244

4. 科目別事業評価

活動項目	事業数（件）	参加者数（人）
(1) 環境教育・環境学習の推進事業	47	1,548
(2) 人材育成事業	31	625
(3) 区民・事業者・行政の交流・連携の推進事業	163	13,199
(4) 情報の提供及び支援事業	3	285
(5) 自然環境の保全と活用	31	730
計	275	16,387

(1) 環境教育・環境学習の推進事業

○結果

- ①グリーンプラン推進校への訪問を通して学校の取り組み内容を把握することができた。
- ②グリーンプラン推進校の取り組み内容が緑化活動に偏る傾向にある。
- ③小学校4校から、学年単位での総合学習の出前授業の依頼があった。
- ④昨年試行的に実施した「子ども環境教室」を本格的に実施することができた。

○次年度への課題

- ①グリーンプラン推進校では、学校側の要望等も把握しながら、無理なく取り組める環境学習について提案できるよう情報収集に努める。
- ②出前授業の依頼を受ける際に、省エネ、節水、ごみ減量等バランスのとれた内容を提示できるようメニューの充実を図る。
- ③環境学習の運営に携わる人材育成に努める。特に大学生等の若い世代がスタッフとして参加できる環境づくりを目指す。

(1-1) 学校等環境学習支援

項 目	計 画	実 績
環境学習支援（グリーンプラン推進校・学校版もったいない運動）	10 校	10 校（累計 68 校） （説明・報告会 2 回/41 人）
出前授業（総合学習）の実施	3 回/150 人	8 回/554 人 *おきがる環境講座（子ども環境学習）3 回/205 人が再掲
21 世紀子ども放課後環境学習支援（すくすくスクール）	4 回/150 人	21 回/992 人 *出前講座（すくすくスクール）1 回/31 人を含む
子ども環境教室（5 日講座×2 回、3 日講座×1 回）	13 回/150 人	18 回/132 人 （うち補講 5 回/21 人）
環境学習施設見学会		1 回/34 人

(2) 人材育成事業

○結 果

- ①おきがる環境講座では、あらたに東京商工会議所江戸川支部、子ども未来館、未踏科学技術協会との連携事業を実施できた。
- ②生ごみリサイクル講習会は開始から 10 年を過ぎ参加者も減少したことから、区の受託事業としては一定の役割を終えた。

○次年度への課題

- ①おきがる環境講座では、他団体等と連携をひろげ、環境問題に関心を持つより広い層に対応できる講座構成について検討し、参加者数の拡大を目指す。
- ②生ごみリサイクル講習会は、今年度から企画提案事業として実施する。

(2-1) 環境学習リーダー養成講座

項 目	計 画	実 績
おきがる環境講座	11 回/220 人	18 回/488 人

(2-2) 生ごみリサイクル講習会

項 目	計 画	実 績
生ごみリサイクル講習会	12 回/120 人	12 回/100 人

(2-3) 環境施設見学会

項 目	計 画	実 績
環境施設見学会		1 回/37 人

(3) 区民・事業者・行政の交流・連携の推進事業

○結 果

- ①平成 22 年度から始まった「みどりのカーテン」モニター登録は年々増加傾向にあり、今年度は最大の 447 件となった。
- ②「省エネ・節電チャレンジ」は震災時の節電意識が年々薄れ、参加者が少なくなっている。
- ③新たな取り組みとして、家庭の省エネ診断サービスを行ったが、参加は 1 世帯にとどまった。
- ④「省エネ出前講座」の中の新たな講座メニューとして、グループワーク形式で実施することができた。
- ⑤区と協力し、6月の環境月間と10月の3R月間に、スーパー、商店街、コンビニエンスストアで「マイバッグキャンペーン」PRを展開した。

○次年度への課題

- ①「みどりのカーテン」モニター講習会の講義内容をパワーポイント原稿にし、参加者により分かりやすく伝える。
- ②家庭の省エネ診断は自宅への訪問形式が参加を難しくしていると考えられることから、データのみでの診断についても合わせて募集する。
- ③マイバッグキャンペーンについては、区と連携し、本庁展示スペースを活用したり、スーパー、商店街、コンビニエンスストアに協力を得ながら実施する。
- ④エコカンパニーに参加する事業者を拡大するため、区と連携し、融資制度や講演会等、事業者への支援を充実させる。

(3-1)もったいない運動えどがわの推進

項 目	計 画	実 績
もったいない運動登録者の拡大	100,000 人	102,391 人
もったいない運動えどがわ区民大会の開催	5,000 人	2,500 人
もったいない講座・講習会の開催	100 人	2 回/212 人
地域イベントへの参加	15 回/5,500 人	16 回/6,888 人
もりあげ隊 (ボランティア参加者数)		12 回/82 人

(3-2)省エネ・新エネルギーの推進

項 目	計 画	実 績
省エネ・節電チャレンジ	150 世帯	63 世帯
省エネナビ貸出	4 回/50 件	説明会 4 回/17 世帯 (夏 15 世帯、冬 2 世帯)
家庭の省エネ診断		1 世帯×2 回
環境に配慮したエコライフ講座、講習会等の開催	22 回/250 人	17 回/326 人 (エコ・クッキング 8 回/135 人)
「みどりのカーテン」の普及啓発	13 回/350 人	講習会 12 回/447 件 交流会 1 回/17 人 環境フェア 60 人
キャンドルナイト (スタンド作り)		49 人

(3-3) 3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進

項 目	計 画	実 績
マイバッグキャンペーン	春・秋2期	春・秋2期実施 (展示会4日/127人)
3Rに関する講座、講習会等の開催	70回/1,000人	76回/1,075人
エコセンターおもちゃの病院	12回/200人	12回/213人

(3-4)事業者の取組み推進・支援

項 目	計 画	実 績
エコカンパニーえどがわ登録事業者の拡大	14件	15件
エコカンパニーえどがわ普及啓発講座	1回/100人	1回/137人
E C E 登録事業者への省エネルギー相談	実施	実施

(3-5)商店（街・会）やスーパーのエコ活動支援

項 目	計 画	実 績
商店街主催イベントへの支援	4回/400人	4回/405人

(3-6)イベント等への参加

項 目	計 画	実 績
産業ときめきフェア	400人	2日/200人
エコプロダクツ2014		3日/450人

(3-7)チャレンジ・ザ・ドリーム（中学生職場体験）

項 目	計 画	実 績
チャレンジ・ザ・ドリーム (中学生職場体験)		5校/11人

(4)情報の提供及び支援事業

○結 果

- ①10周年記念誌の発行に際し、会員、エコカンパニー事業所、講座講習会参加者を対象にアンケート調査を実施した。
- ②エコセンターパンフレット「共育・協働の環境づくり」と「団体活動内容のご案内」を講座講習会参加者に配布し、PRに努めた。
- ③月間イベントカレンダーを図書館やコミュニティ施設に配布し、認知度の向上に努めた。
- ④多目的ルームの利用が年々活発になって、より柔軟に対応できるようリフォームした。
- ⑤会員向け講演会・バスツアーを実施し、会員への情報提供、交流の機会となった。
- ⑥江戸川総合人生大学の単位「社会活動体験」の場としてエコセンターが活用された。

○次年度への課題

- ①アンケート結果を踏まえ、今後のエコセンター活動の参考にしていく。
- ②ホームページの内容を充実させ、更新に努める。
- ③好評であった会員向け講演会、バスツアーの内容をより充実させる。

(4-1)情報の発信と提供

項 目	計 画	実 績
10周年記念誌の発行		1,000部
「エコちゃんねる」の発行	3回	33号 3,000部 34号 3,000部
ホームページの運営管理	実施	実施
リーフレットの作成	実施	実施
多目的ルームの活用	実施	実施

(4-2)他団体との連携・活動支援

項 目	計 画	実 績
江戸川総合人生大学への講師派遣	実施	実施
葛西臨海たんけん隊による参加体験型 環境教育プログラム	1,200人	258人
キッズライド実行委員会 事務局共催事業（自転車利用の促進）	200人	中止
自然体験活動推移新協議会（CONE）、 環境教育フォーラム等との連携	実施	実施

(4-3)相談業務事業

項 目	計 画	実 績
会員等からの団体運営や事業等の相談	実施	実施

(4-4)会員の拡大

項 目	計 画	実 績
会員向けの講演会・交流会の実施		1回/27人
あらゆる機会をとらえてのPR	実施	実施

(5)自然環境の保全と活用

○結 果

- ①水辺環境調査の調査員を増員した。
- ②水辺環境調査では、悪天候により度重なる日程変更を強いられた。

○次年度への課題

- ①水辺環境調査では、自然環境保全に関心のある理系学生等に調査員参加を呼びかける。
- ②子ども未来館と連携し、新川に親しむ環境学習プログラムを実施する。
- ③水辺環境調査の長年蓄積したデータを活用し、江戸川区の豊かな自然環境を周知するためのパンフレットを制作する。

(5-1)水辺環境調査

項 目	計 画	実 績
新中川、江戸川・旧江戸川、荒川、葛西沖の水辺環境調査（受託事業）	植物 3 回/鳥類 3 回/ 魚類・底生動物 1 回/ 船上調査（植物・鳥類・ 魚類・底生動物） 1 回	植物 3 回/鳥類 3 回/ 魚類・底生動物 1 回/ 船上調査（植物・鳥類・ 魚類・底生動物） 1 回

(5-2)自然復元・再生事業

項 目	計 画	実 績
河川や海岸のクリーン作戦を通じた自然環境の復元を進める	150 人	1 回/21 人 ※雨天順延
絶滅種や生物多様性に関する啓発を進める（ムジナモ・ビオトープ）	180 人	4 回/98 人

(5-3)自然観察会・えどがわ自然学校

項 目	計 画	実 績
えどがわ自然学校や自然観察会等を通じ、自然に触れる	450 人	17 回/396 人
一之江境川親水公園自然観察会	200 人	160 人
自然活動用啓発冊子、安全にかかわる情報提供	実施	実施